

SYMPOSIUM & WORKSHOP REPORT

01 第10回新炭素資源学国際シンポジウム The 10th International Symposium on Novel Carbon Resource Sciences

日時: 2013年12月2日
場所: 九州大学筑紫キャンパス

「新炭素資源学」研究拠点リーダー 永島 英夫

2008年秋にキックオフシンポジウムを福岡で開催して以来、本拠点はグローバルCOE事業の枠組みで9回の主催国際シンポジウムを重ねてきた。今年度は、文部科学省の「卓越した大学院拠点形成事業」でCOE事業の継続を可能とする支援を得たため、10回目のシンポジウムを開催するに至った。COEの教育・研究機能のうち、先端研究は平成25年4月より、炭素資源国際教育研究センターとエネルギー基盤技術国際教育研究センターが連携して引き継ぐことになっている。また、教育機能は両センターとリーディング大学院グリーンアジア国際戦略プログラム(およびその母体となるグリーンアジアリーダー教育センター)が協力して継続支援していくこととなっている。以上より、シンポジウムの構成を、創エネルギー

の観点から、①バイオマスと②風力発電、エネルギー基盤技術の観点から、③熱電変換素子、環境保全の観点から、④ディーゼル車排ガス浄化、⑤核廃棄物除去材料、の5点とし、それぞれの分野から、Xun Hu博士(カーティン大学、オーストラリア)、Peter Jamieson 博士(ストラスクライド大学、イギリス)、Ngo van Nong 博士(デンマーク工科大学)、Hong He 教授(中国科学院)、Sridhar Kamarneni教授(ペンシルベニア州立大学、アメリカ)の5名の講師を招へいし、講演会を実施した。昼食時にCOE所属大学院生によるそれぞれの研究成果のポスターセッションをおこなったのち、例年実施している学生セッションを上記5つの講演内容とリンクしたテーマを設定して実施した。

今回のシンポジウムの特徴は、グリーンアジア国際戦略プログラムとの共催である。グリーンアジア国際戦略プログラムは、タイ・マヒドン大学、マレーシア日本国際工科院、シンガポール国立大学、インド工科大学マドラス校、インドネシア・バンドン工科大学、バングラデシュ・ダッカ大学と国際連携を実施しているが、学生セッションにこれらの連携校から学生2名ずつが参加した。また、それぞれの連携校から教員のシンポジウムへの参加を得て、セッションへの協力、あるいは、滞在中の教育連携や共同研究についての話し合い等がおこなわれた。

シンポジウムも10回の節目を迎え、来年度に国からの予算措置がされないことから、ひとまずその役割を終えることとなる。今後、グリーンアジアプログラムに協力する形

でのシンポジウムへの参画は考えられるが、主催シンポジウムとしては最終となる。これまでシンポジウムに関わる業務は、COE事務局のテクニカルスタッフ6名、事務補佐員で実施してきた。今回のシンポジウムは、専任のテクニカルスタッフ(牧野)、COE事務局から移籍したグリーンアジアプログラムのテクニカルスタッフ(叶、平島)という少ない人数での実施となった。また、学生セッションについては博士後期課程学生(D1)生が手分けして役割を果たしてくれた。本シンポジウムに係わったすべての方のご協力に心から感謝する。

講演一覧

“Green Fuels and Energy from Biomass: Research & Development in Fuels and Energy Technology Institute in Curtin University”
Dr.Xun HU (オーストラリア・カーティン大学)

“After Treatment System in Heavy Duty Diesel Vehicle Pollution Control”
Prof.Hong HE (中国科学院)

“High Temperature Thermoelectric Materials and Devices for Waste Heat Recovery”
Dr.Ngo Van NONG (デンマーク工科大学)

“The Development of Wind Energy Technology”
Dr.Peter JAMIESON (英国・ストラスクライド大学)

“Synthetic and Modified Clays for Uptake of Nuclear Waste Ions”
Prof.Sridhar KOMARNENI (米国・ペンシルベニア州立大学)

